本棚ぶらり

テーマ 環境

『身近な環境・生活のホントがよくわかる本』

浦野紘平（うらのこうへい）・浦野真弥（うらのしんや）／著
オーム社　2021 年

「環境」と聞いて思い浮かべるものは人それぞれ。身近な空気、水、土と森、生物と人体、生活様式、食べ物、エネルギー、ごみについての「ホント」を100のテーマでまとめた本書は、様々な切り口から「環境」に迫っている。

紙を１キログラムつくるのに必要な水の量は？ 絶滅の危機に瀕している生物は何種類？ １年間に捨てられる食べ物の総重量は？ 燃料消費量と台風の関係は？ ごみからつくられるものとは？ レジ袋有料化導入前の年間使用枚数は？ 取り上げられた数値や事例の中には、驚くようなものもあり、思わず誰かに話したくなってしまう。

１テーマにつき見開き２ページの構成で、どこからでも、短時間で目を通せるが、読み応えは十分。巻末には1,600以上の参考URLが掲載され、特定のテーマを掘り下げる情報源としても活用できる。

『コーヒーで読み解く SDGs』

José. 川島良彰（かわしまよしあき）・池本幸生（いけもとゆきお）・山下加夏（やましたかな）／著
ポプラ社　2021 年

「SDGs」という言葉は知っているが、内容はよく分からないという人が少なくないだろう。本書は、SDGsで定められている17の各目標を、人々の生活に身近なコーヒーの生産から輸送、消費に関連付けて分かりやすく説明している。コーヒー生産を取り巻く問題として、生産過程においての温室効果ガスの排出や有害物質を含む排水による河川の汚染、農地拡大による森林破壊などがある。これらを克服するための世界各地の農園の取り組みが、現地写真を織り交ぜながら紹介されている。世界中のコーヒー産地に足を運んだ著者の経験に基づく解説はリアリティを感じ、説得力がある。普段何気なく飲んでいるコーヒーの環境、経済、社会に与える影響の大きさに驚かされる一冊である。

『これってホントにエコなの？』

ジョージーナ・ウィルソン＝パウエル／著
吉田綾（よしだあや）／監訳　吉原かれん（よしはら）／訳
東京書籍　2021 年

「食器洗浄機と手洗い、水の節約になるのはどっち？」皆様はこの問いに答えられるだろうか。本書には、このような日常生活で遭遇するエコについての疑問が140以上掲載され、そのひとつひとつに対して事実に基づく回答がされている。「車よりも電車を利用する」「野菜を自家栽培する」など環境に優しい生活を送るためのコツも紹介されている。「気候科学者は、2030年までに先進国の生活スタイルを抜本的に変えなければ、環境破壊は修復不可能なレベルにまで進むと見込んでいます」と著者は言う。本書を読んで実践できそうなものや意識したいことを選択し、少しずつ自身の行動を変えてみてはいかがだろうか。グリーティングカードが及ぼす環境への悪影響など、イギリス在住の著者ならではの見解が示されている箇所があり、日本と諸外国の生活や文化の違いが垣間見えるのも本書の面白いところである。

『脱炭素革命への挑戦』

堅達京子（げんだつきょうこ）＋NHK 取材班／著
山と溪谷社　2021 年

毎年のように襲い来る水害や猛暑。異常気象の原因の一つと考えられている地球温暖化を食い止めるため、2020年10月、ついに日本政府も「2050年カーボンニュートラル宣言」に踏み切った。

では、なぜ脱炭素が必要なのか。著者は、「このままのペースで温暖化が進むと、早ければ2030年に、地球環境の防衛ラインとされている産業革命前からの1.5度上昇に達してしまう」、「低地に位置している巨大都市や小島嶼国の多くで、2050年までに、これまで100年に一度起こるような災害が、毎年起こるようになる」といった報告を根拠に、「いま真剣な対策を取らなければ、本当に手遅れになってしまう」と訴える。

国内外の政府・自治体・企業における先進事例に加えて、「私たち一人一人に何ができるのか」も紹介され、脱炭素を自分事として捉えるのに役立つ一冊。「マイボトルやエコバッグを持ち歩く」ことも「大きな一歩」なので、まだ取り組んでいない方は始めてみては。

このページの書影画像はBOOKデータASPから引用しています